



今、用語の氾濫に悩んでいます

廃棄物学会副会長 田中信壽



言葉、特に政治行政的に使われる言葉は、本質的に玉虫色である。特に、キーワード的に使われる言葉（用語）はその傾向が強い。それぞれの立場で自分に都合の良いように解釈して合意に達するからであろう。廃棄物分野でもゼロエミッション、ごみゼロ、循環型社会、循環資源、廃棄物等、発生抑制、排出抑制、再使用、再利用、熱回収、リサイクル、再商品化、等々多数ある。

すべてリサイクルして埋立処分する廃棄物が無くなるのが循環型社会と考える人がいる。言葉のいたずらである。ごみゼロは、不用品として発生するものがゼロと考える人がいるが、埋立物を最小化しようとする考えであるようで、ゼロエミッションは家庭・事業所・都市などから排出される全ての廃棄物を何らかの再資源化施設に運び込むことであり、排出廃棄物をゼロにするわけではない。

廃棄物の勉強をしてみます戸惑うのは法律用語がやたらに多く、互いによく似ていることである。「廃棄物処理法」に言う処理は、管理(Management)である。法の第二条で、「「廃棄物」とはごみ、粗大ごみ、燃え殻、...をいう。」とあり、廃棄物とごみとは違う。このごみは、一般廃棄物と全く同一でもなさそうである。私たちがよく使う「都市ごみ（自治体が計画的に処理を行う廃棄物）」もごみでもないし、一般廃棄物でもない。収集は廃棄物を集めて回ることであり、運搬は積んだ廃棄物を目的地まで輸送することであり、収集運搬と一語で呼ぶ。ごみ処理施設の処理(Treatment)は中間処理で、最終処分(Final Disposal)は海洋投入が禁止された現状では、埋立処分(Sanitary Landfill)であり、行政用語では、中間処理と埋立処分を一括して処分という。しかし、英語で何というか

難しい（新しい日本語を作ったときそれを英語で表現できるかどうか考えると良いという）。処理には、再生や再生利用が含まれる。また、廃棄物の減量とは、廃棄物の排出の抑制と再生利用等からなる（廃棄物処理法第五条の二）。排出抑制は発生抑制(Reduce)と同じか。

「循環型社会(Recycling-based society)形成推進基本法」では、循環資源(recyclable resources)、廃棄物等(wastes,etc.)、発生抑制(those which can be reused must be reused)、再使用(reuse)、再利用(regeneration)、熱利用(heat recovery)、適正処分(those which not recycled under the foregoing three Subparagraphs must be disposed) 等々の用語が出てくる〔このパラグラフの英語は、英文仮訳（環境省ホームページ掲載）に使用されているものである〕

「資源有効利用促進法(Law for Promotion of Effective Utilization of Resources)」では、リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycling)、副産物(By-product)、再生資源(Recyclable resources)、再資源化製品(Resources-reconverted product)、再利用促進製品(Resources-reutilized product)、省資源化製品(Resources-saved product)などがある。容器包装リサイクル法では再商品化(Recycling)という言葉もある〔このパラグラフの英語は Clean Japan Center:"Recycling-Oriented Society",March,2001 から〕

そろそろ、法律を整理統合して、用語も分かりやすく整理して欲しい。国民の理解を得て推進していく必要のある廃棄物問題においては、国民が分かりやすく誤解のない用語を用いるのが、急務ではないか。また、学会が寄与できるところではない

8月1日から廃棄物学会ホームページアドレス
が変更になりました。新しいアドレスは、
<http://www.soc.nii.ac.jp/jswme/index.html>

平成13年度廃棄物学会賞候補者募集

平成13年度廃棄物学会賞の推薦募集をいたしますので、
下記要項に従い、奮って推薦応募されますようお願いいたします。

推薦要項

1. 表彰の対象
- 1) 廃棄物学会大賞
廃棄物学の進歩、廃棄物事業の発展に貢献し、顕著な
功績があった者
- 2) 廃棄物学会功績賞
本会の運営に顕著な功績があった者
- 3) 廃棄物学会有功賞
廃棄物学に係わる技術等の進展に顕著な貢献があったと評
価され、画期的な業績をあげた者
- 4) 廃棄物学会論文賞
廃棄物学において、独創的な研究開発ならびに技術に
関する論文の発表により、当該学術・技術の進歩発展に
顕著な功績があった者
- 5) 廃棄物学会著作賞
廃棄物学に関する著作の発表により、当該学術・技術
の進歩発展に顕著な功績があった者
- 6) 廃棄物学会奨励賞
廃棄物学のうち、限定された範囲項目についての独創
的な学術・技術・製品などで画期的な業績をあげた者

2. 受賞候補者の資格：廃棄物学会賞受賞候補対象者は、
個人又はグループ及び団体とする。個人の場合は原則
として本会会員とし、グループ（5名以内）の場合は、
グループの中に本会正会員が1名以上参加し、対象業績
に主要な役割を果たしていること。また、団体は原則
として、本会の公益会員及び賛助会員とする。
3. 候補の範囲：表彰種別のうち廃棄物学会論文賞、同著作
賞および同奨励賞については、受賞候補年度よりさかのぼ
り、原則として2年以内の功績又は業績をあげた者とする。
廃棄物学会大賞と同功績賞及び同有功賞については期間
に制約をおかない。
4. 推薦の制約：同一の候補者に対して、同一の推薦者が、
2つ以上の各賞の候補として推薦することは認めない。
5. 応募の方法：本会正会員の3名の推薦によるものとする。
6. 表彰の方法：表彰審査委員会で慎重に審査の上、入賞者
には表彰状および記念品を贈呈する。
7. 表彰の時期：表彰は平成14年度開催の本会定期総会にお
いて行う。
8. 提出書類：申請には本会の所定様式（廃棄物学会賞推薦
書様式）に従い必要事項を記載し、1件につき正1通、副2
通（コピーで可）の計3通を提出するものとする。
9. 提出締切日：平成13年11月30日（金）必着
10. 提出先（送付先）：廃棄物学会事務局 表彰担当
推薦書の請求およびお問い合わせは、廃棄物学会事務局まで

北海道支部（仮称）セミナー 2001年7月6日

「私たちが直面する廃棄物問題～住民参加と情報共有～」開催報告

廃棄物学会北海道支部（仮称）セミナーが、平成13
年7月6日午後、北大クラーク会館大講堂にて開催さ
れた。当日は、代表幹事、グループリーダーからの活
動中間報告、4名の講師による講演（「住民合意の形に
ついて」（北海道倶知安町 町長 伊藤 弘氏）「家電
リサイクル法への取り組みと課題」（北海道エコリサイ
クルシステムズ㈱ 社長 吉田雅志氏）「廃棄物処理
施設建設を取り巻く社会状況と情報レベル～情報共有
が廃棄物問題を救う～」(株)未来開発コンサルタント
代表 米通 猛氏）「行政法における循環型社会の合
意形成手続」（札幌大学教授 福士 明氏）参加者との
総合討論の3部構成で行なわれた。一般117名、学
生26名の合計143名と予想をはるかに超える多くの参
加を得ることができた。

さて、廃棄物計画における合意形成の問題は、ほと
んどすべての廃棄物問題解決において避けられない課
題である。

本セミナーでは、まず、伊藤氏から「南後志地域廃
棄物広域処理連絡協議会」の広域化計画における適地
選定と自治体間の合意形成、倶知安町における住民合
意、議会の承認などについて、今日までの経験が詳細
に語られた。吉田氏からは、家電リサイクル工場が市
民への公開によって地域融和型施設として社会に受け
入れられていく可能性を、4月以降の工場の操業実態
とともに説明いただいた。つづいて米通氏からは、北
海道の広域化計画の事例にもとづいた話題が提供され
た。福士氏からは、廃棄物計画における合意形成に必
要な視点を行政法学の立場から解説していただいた。
その後、施設の立地とリサイクル活動、住民参加と情
報共有という視点をもとに、実務レベルでの問題解決
から理念的なレベルに関する問いかけまで、様々な観
点の質疑応答が参加者とセミナー講師との間で行われ
た。「住民参加と情報共有」に関する主要な問いはおお
むね出されたのではないかと感じる次第である。

4 時間という短い時間では当然尽くせない議論であったが、今後は廃棄物学会および北海道支部（仮称）のホームページなどを情報交流の場としてご活用いただき、それぞれの立場での問題解決に資するよう学会との関係をもっていただければ幸いである。北海道支

部（仮称）では、今後ともこのような活動を継続する計画ですので、ご支援をよろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、ご協力いただいた関係各位に感謝の意を表します。

（北海道支部（仮称） 東海 明宏 記）

訃報 ～左合正雄先生ご逝去を悼む～

廃棄物学会名誉会員、東京都立大学名誉教授左合正雄先生には、平成 13 年 7 月 7 日午前 0 時 55 分に入院中の東京都豊島区の病院でご逝去されました。享年 88 歳でした。

左合先生は、昭和 14 年 3 月東京帝国大学ご卒業後、同 35 年 4 月東京都立大学教授になられました。同 52 年 3 月東京都立大学を退官、名誉教授になられ、その後、東京理科大学で教鞭をとられました。この間、国の各種審議会、委員会等でご活躍され、わが国の廃棄物分野の第一人者として、廃棄物対策の確立にご尽力なされました。先生のご活躍は、廃棄物分野にとどまらず、これらのご功績により昭和 60 年に勲二等瑞宝章を受章されております。平成元年 8 月には、新たに設立された（財）廃棄物研究財団の初代理事長に就任され、多くの困難な研究課題への取り組みをご指導されました。

廃棄物学会には、平成 2 年 3 月の発足と同時にご参加いただき、以来、名誉会員としてご指導をいただいてまいりました。心からご冥福をお祈りいたします。

【お知らせ】

○ミラクルソル協会主催・廃棄物学会後援

平成 13 年度「ミラクルソル工法」技術講習会

第 3 回（九州会場）

開催日：平成 13 年 10 月 17 日（水）13：30～16：30

場 所：（財）福岡県中小企業振興センター（福岡県福岡市）

第 4 回（大阪会場）

開催日：平成 13 年 10 月 22 日（月）13：30～16：30

場 所：（財）大阪科学技術センター（大阪府豊中市）

問合せ：ミラクルソル協会事務局 西村

Tel:03-5687-1931

<http://www.miracle-sol.gr.jp/>

○近畿化学協会・大阪工研協会・廃棄物学会協賛

技術・情報交流展「化学発信あらたな出会い 2001」

開催日：平成 13 年 10 月 10 日（水）～12 日（金）

場 所：千里ライフサイエンスセンター（大阪府大阪市）

参加費：協賛団体会員 6,000 円

問合せ：（社）近畿化学協会 Tel：06-6441-5531

<http://www.yo.rim.or.jp/~kinka>

○日本環境衛生センター主催

平成 13 年度循環型社会の創造に向けた廃棄物処理科学研究シンポジウム

開催日：平成 13 年 9 月 20 日、21 日

場 所：日本青年館ホテル（東京都新宿区）

参加費：無料

問合せ：（財）日本環境衛生センター

Tel：044-288-4896(代)

<http://www.jesc.or.jp>

事務局だより

学会員の皆さん、残暑お見舞い申し上げます。

この夏は関東を中心に猛暑に見舞われましたが、いかがお過ごしでしょうか。この猛暑により、東京電力では 2 年 10 ヶ月ぶりに発電能力に余裕のある他社から電力の緊急融通をうけたとか。折しも同時期にはボンで COP6 が開催され、京都議定書運用ルールが合意されました。エネルギー転換部門（発電所等）は、地球温暖化ガスの一つである二酸化炭素総排出量のうち直接排出割合で約 3 割を占めています。今後の動向に注目です。猛暑によりエアコンの販売

会 員 状 況

H13.7.31 現在
（ ）内は、H13.*.1 以降の増減

正 会 員	3,531 (126)
学生会員	250 (15)
外国人会員 (DM)	19 (0)
公益会員	113 (2)
賛助会員	212 (11)
計	4,125 (156)

注) 外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第 4 条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.64 平成 13 年 8 月 30 日発行
廃棄物学会 〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前ビル 5F

Tel.03-3769-5099 Fax.03-3769-1492



<http://www.soc.nii.ac.jp/jswe/index.html>
古紙配合率 100%再生紙を使用しています

額が前年同月比で 10.5%と 2 ケタの増加とか。数ヶ月前には家電リサイクル法施行前の駆け込み需要があったばかり。法律の施行や気候変動が廃棄物問題にも直結しています。事務局では、研究発表会準備に忙しい毎日を送っています。詳細は同封の参加案内のとおりです。皆様のご参加をお待ちしています。第 6 号となる会員名簿が発行されました。当名簿に限ったことではありませんが、良からぬ利用をされることがあるようです。会員にとって貴重な情報ですので、適切にご利用いただきますようお願いいたします。

(K.O 記)